

智頭町は“ホンモノの農産物”づくりを応援します

食の安全が問われる今、農薬・化学肥料の使用を抑えた安心して食べられるおいしい農産物を求める消費者が増えています。智頭町では、慣行栽培(栽培手引に記された施肥・防除の方法)から農薬や化学肥料を5割以上節減した農産物を“智頭ホンモノの農産物”として、栽培から販売までの支援を行います。



(参考)チンゲンサイの慣行栽培基準
 ・施肥 10aあたり化学肥料 11kg
 ・防除 使用農薬成分数 13成分
 (農薬1回の使用で2成分として約6回)
 ※この使用基準の半分を目標に栽培します。

智頭町の野菜づくりは自家用で小規模な畑がほとんど。直売所に出荷されるかたも少なく、家庭で食べきれない野菜は畑に放置されているのをよく見かけます。

しかし、その野菜こそ『子や孫に食べさせたい』『親戚に送ってあげたい』と、農薬も化学肥料もなるべく使わずに育てた安全でおいしいホンモノの農産物です。

形が悪かったり虫にかじられて売り物にならない…とと思っている農産物を販売し、智頭の農業を元気にする仕組みを一緒に考えていきましょう。

その1 土づくり・低農薬に挑戦！ 智頭町ホンモノの農産物づくり応援モデル事業

有機肥料や低農薬技術の導入を推進する農業者を応援します。来春からの農業に向けて、今から土づくりに取り組んでみませんか？申請手続き、特別栽培米の認証について関心があるかたはお気軽にお問い合わせください。

対象作物	助成対象	助成金額
水稲	販売を前提とした鳥取県特別栽培米の認証を受けた米	玄米 60 kg あたり 1,000 円 (1戸あたり上限 3万円)
野菜	出荷販売等を前提として栽培するために購入する堆肥・有機肥料、低農薬栽培のための資材にかかる経費	経費の 1/2 を助成 (1戸あたり上限 3万円)

その2 野菜づくりを勉強しませんか？ 野菜づくり現地学習会を企画します

智頭町内の畑で多く栽培される野菜の中から3品目を選び、低農薬栽培の専門家による野菜の現地指導を行います。開催は4月～10月のうち、3回程度の開催を予定しています。(春・夏・秋ごとに収穫される野菜で各1種類ずつ)

『この野菜の育て方が知りたい!』というご要望をいただければ、要望多数の品目を野菜づくり現地学習会の題目とします。

2月末までに要望、ご質問をお寄せください。開催内容は広報ちづ3月号で詳しくご案内します。



その3 農産物の販売をお手伝いします!

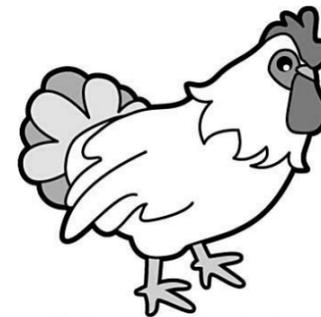
農産物の販売先は、JA直売所(百菜館・JAグリーン等)が一般的ですが、野菜の規格・品質を保つことや野菜の収穫品種・時期が重なること、出荷調整作業等が面倒、などの理由から野菜を出荷・販売する農家は少ないのが現状です。

智頭町では軽トラ朝市の継続実施、今年4月からスタートする疎開保険事業をはじめ『農産物を収集し、関西方面へ販売する』仕組みをつくり、皆さんがやりがいを感じられる農業を応援します。

一緒に“土づくり”から“智頭ホンモノの農産物づくり”に取り組んでみませんか？



にわとり用の飼料米をつくってみませんか？



来年度、那岐地区 五月田集落内に(有)ひよこカンパニーが鶏舎4棟を建設し、採卵用のにわとり1万2千羽を飼育します。

鶏用の飼料として“日本晴”を栽培してくださる人を募集します。

平成22年から調整水田(何も作らず管理だけしている田んぼ)への助成はなくなりましたが、飼料米を作付けされる場合は、10aあたり8万円が交付されます。飼料米は転作作物にもなります。

減反する田んぼで作付けをしてみませんか？

■飼料米“日本晴”の特徴と注意点

- 倒伏に強く、食用米に比べて収穫量が多い。
- 飼料米は、もみで出荷しますので乾燥だけで、粉ずりや精米作業は必要ありません。
- 食用米に比べて収穫は遅く、9月下旬～10月上旬が収穫時期となります。食用米と時期がずれることにより乾燥作業が重複しないので、食用米と飼料米が混ざるとは避けられます。
- × ただし、作付する場所によっては食用米の作付を基準とするため、田んぼへの引水を制限される場合があるかと思えます。「飼料米の生育に水が必要な時期に水が引けない」という事態も想定されますので、周辺農地の所有者、または地域での調整が必要となります。



■10a(1反)あたりの収益は

- ・飼料米の販売額を1kgあたり約25円と仮定して、10aで粉640kg(8俵)を収穫したとして16,000円の収入。
- ・飼料米10aあたり補助金80,000円が受けられますので、合計で96,000円の収入が見込めます。
- ・飼料米の栽培にかかる経費10aあたり約49,000円を差し引いても、47,000円の所得が見込めます。

飼料米と食用米の経営試算(目安) (10aあたり)

		飼料米	食用米
収入	前提条件	・乾もみ 1kg25円 ・10aあたり乾燥もみ640kg	・玄米1kg220円 (10aで480kg) ・生産調整を達成すること。
	販売額	16,000円	105,600円
	助成金	80,000円	15,000円
計		96,000円	120,600円
経費	苗代	11,000円	11,000円
	農薬等	9,000円	10,800円
	肥料	12,000円	10,800円
	乾燥調整	11,500円	16,200円
	出荷諸経費	5,500円	5,100円
	計	49,000円	53,900円
農業所得		47,000円	66,700円

※試算経費は、JA鳥取いなば本店の資料から引用したものです。

※田植え・刈取り等の作業委託料は含まれていません。

作付けを希望されるかたは

■2月 作付計画

智頭町水田協議会(事務所:JA団地センター3階)が作付営農計画をとりまとめます。

各集落の営農推進員から戸別に計画書が配布されますので、作付けを希望される人は、その用紙に『どこの田んぼで』『どれだけの面積で飼料米をつくるのか』を記入してください。

■6月 助成金の手続き・作付け

助成金の手続きは、所定の用紙で新規需要米(飼料米)の取組計画書と契約書の提出が必要です。作付け品種は“日本晴”に統一させていただきます。種籾または苗箱はJA智頭支店で購入してください。

※日本晴は収穫時期が遅い品種ですので、苗の供給は6月上旬となります。また、ライスセンターへの籾の搬入は、10月の予定です。

■9月下旬～10月上旬 収穫・出荷

収穫は適期に行い、できるだけ水分の下がった籾を智頭ライスセンターへ搬入してください。